

令和5年度(2023年度)第2回 函館市地域支え合い推進協議体 会議概要

■ 日 時

令和6年(2024年)2月28日(水) 14:30～15:30

■ 場 所

函館市役所 8階第2会議室(東雲町4番13号)

■ 議 事

1 開会

2 報告

生活支援コーディネーター業務に係る活動(函館市生活支援コーディネーター活動便りの発行)について

3 議事

生活支援コーディネーターの普及啓発について

4 その他

5 閉会

■ 配布資料

会議次第

座席表

函館市生活支援コーディネーター活動便り

高齢者生活支援のイメージキャラクター審査資料一式

■ 出席委員(9名)

阿知波委員, 池田委員, 河合委員, 川上委員, 三田委員, 齊藤委員, 四戸委員, 能川委員, 林委員

■ 傍 聴

1名

■ 報道機関

なし

■ 市職員(事務局)

保健福祉部地域包括ケア推進課 岩島主査, 石黒主任

■ 会議要旨

1 開会

2 報告 生活支援コーディネーター業務に係る活動（函館市生活支援コーディネーター活動便りの発行）について

池田会長

それでは、「2 報告 生活支援コーディネーター業務に係る活動（函館市生活支援コーディネーター活動便りの発行）」について、第1層生活支援コーディネーターの齊藤委員から説明をお願いしたい。

齊藤委員

（資料「函館市生活支援コーディネーター活動便り」に基づき、活動内容を説明）

- ・函館大妻高等学校愛護部生徒による「ちょこっと見守りプロジェクト」
- ・「くらしのサポーター」による資源ごみ回収実践活動
- ・シニア世代のスキルを活かした社会参加「ポジティブボランティア」

池田会長

「ちょこっと見守りプロジェクト」では、生徒たちがグループワークで、色々な意見を出してくれたとの話であったが、活動便りにあるように、生徒たちは様々な感想を述べており、積極的にこういうことに参加していくことは、すごく大事だと知ることができた。生徒も立派な修了証をもらい喜んでいました。

また、先日別件で介護教室の様子を見に行っただが、圧倒的に女性が多く男性は1人だけであった。今後、高齢化の問題と男性をどのように組込んでいけばよいのか、函館市の抱えている問題が2点あるのではとの感想を持った。

今回の「くらしのサポーター」でも、女性が多くて男性が数人しかおらず、地域で活動する仲間づくりやボランティア実践に、どうやって男性を組み込んでいくのが課題だと考えながら話を聞いていた。

最初に私が話してしまったが、今の齊藤委員の発表について何かご質問がある方はお願いしたい。

岩島主査

その前に、前任の第1層生活支援コーディネーター（以下「第1層」という）から引き継いだ「おじさんプロジェクト」について、どのようになったか気になっている委員もいらっしゃると思うので、簡単にでもお話し願いたい。

齊藤委員

「おじさんプロジェクト」は、一番始めに軽く触れて、そのままになっていたかと思う。一人ひとりに声をかけたが、病気がちでほとんど動けない方、動ける方であっても既にほかのボランティアに入り

活動していたため、最終的に「おじさんプロジェクト」として何かを行うことはなかった。

ただ、今回その中の一名だけ「くらしのサポーター」に来ていただくことができたので、男性チームで何かやっていただけるかと期待したが、それぞれの思いが強く意見がまとまらなかった。一方、女性チームは、「まずはトライしてみよう。」という考え方で動き始めた。

事務局

では、「おじさんプロジェクト」自体は進んでおらず、今後おじさんを女性チームに加えながら進めることになりそうか。

齊藤委員

それは3月に話し合ってからになるので、まだ分からない。

池田会長

ほかに何かあるか。能川委員は、ボランティアについてどう思うか。

能川委員

活動便りを開いた右のページにある、「ポジティブボランティア」という言葉だが、ここ近年、全国的にボランティアという言葉を使うと、高齢者の活動と捉えられがちになってきた。

どこかの市では、サポーターとボランティアを合わせた言葉「サポランテ」を用いて、どちらかといえば若い人がやっているように見せている感じがある。

そして、今度は「ポジボラ」という言葉が出てくるのかと思い、自分としてはボランティアという言葉にとってもこだわっているので、先ほどのサポランテやポジボラという言葉は気持ちのどこかで引っかかっている。要は、年代を問わずボランティアはボランティアだという風に広めていきたいのが、ボランティア連絡協議会の立場での感想である。

これから若い人と高齢の人とが一緒にやっていくにしても、どのように取り組んでいけばよいのか、我々には純粋な悩みであるが、ちょこっと見守りの活動を大妻高校の生徒さんと一緒にやっていることは、すごく良い活動だと思っている。

池田会長

今、町会と地域包括支援センターとが一緒になって色んなことを行うかたちができている。例えば、町会で何かやる時に、ちょこっと見守りのような高校生等を入れながら活動し、最後に修了証を渡せば、高校生等の励みにもなるし、進学の際に地域に対する貢献度についても認められるのではないかと。町会や包括など様々なところに輪を広げることによって、より活性化していくのではないかと。思う。

四戸副会長

私たち包括は事業をやっていく上で、町会や民生委員との関わりが元々とても深い。そこに今、多世代というところで、高校生や小・中学生だけでなく、その親世代にも色々働きかけられるため、各包括がここ数年学校への働きかけを頑張っている。町会の担い手不足や人手不足の中で、小・中学生や高校生のボランティアとのマッチングや、子どもたちの参加による町会活動の活性化というものを、何年かすごく頑張ってきている。これからも町会との繋がりを発揮できるような活動に協力したいと全包括が考えていると思う。

池田会長

各高校にボランティア部があるので、そのボランティア部との繋がりを深めていけば、町会での活動ができるかなと思う。

川上委員

先ほど民生委員の話が出ていたが、民生委員と在宅福祉委員の連携が上手くいっていない現状がある。

四戸副会長

民生委員と在宅福祉委員との連携の件については、実際、あまり関わりのない所もあれば、民生委員と在宅福祉委員がすごく密になってやっている所もあるので、町会や地域により差があるかと思う。

阿知波委員

在宅福祉ふれあい事業は、社会福祉協議会の事業であり、在宅福祉委員会は社会福祉協議会と一緒にやらせていただき、お世話になっている。地域ごとで民生委員と町会の方の繋がりが上手くいくところは問題ないが、民生委員の守秘義務など強くやられているところはなかなか難しい。そこはお願いでしかなく、地域の方々に委員会というものを組織し、ボランティアで協力いただけるようお願いしてやっていただいている組織になる。

川上委員

我々松風町会のような世帯数の少ない町会であれば、人材不足のため、民生委員や在宅福祉委員だけでなく、町会の役員もお一人の方が兼務しながらやっている現状がある。単町会でできる事業が段々少なくなっている町会がほとんどで、我々も今、若松町会や東雲町会など色々な町会とドッキングして、やらせてもらっているが、包括はこん中央とあさひの両方に跨るので、どうなのか。

齊藤委員

第2層生活支援コーディネーターである包括と第1層との連絡会が毎月あるが、そこでも、川上委員が今おっしゃったように、一つの町だけでは難しいところがあるので、一緒になってやらなければいけないとの議題が出ていた。

池田会長

ほかに意見はないか。河合委員はいかがか。

河合委員

私は、ご報告のあった「くらしのサポーター活動実践」に、函館市居宅介護支援事業所連絡協議会（以下、「居宅連協」という）として携わらせてもらった。ボランティアの方の移動距離や負担を考え、支援の内容もまずは資源ごみの回収というところで、今回は居宅連協の幹事の中でマッチングを図ったが、マッチする方を見つけるのはなかなか大変であった。

今後、この活動をもっと広げていくのであれば、幹部だけでなく、居宅連協自体が67事業所ほど加盟しており、会員のケアマネジャーは100人ちょっといるので、そこからまたマッチングを図ることができれば、もう少し居宅連協もお役に立てると思うので、活用していただければと思う。

齊藤委員

よろしくお願ひしたい。

三田委員

地域密着という点では、包括が中心となってやっていくのが一番良いと思うが、町会役員はとにかく人材不足で、60代・70代でもお仕事をされている方が非常に多い。包括の役割や活動が幅広い領域になっているので、その組織を中心とした活動が町会へ浸透していくのは、まだまだこれからかなと課題として捉えている。

林委員

最近シルバー人材センターでも、男性は登録こそしてくれるが、なかなかお仕事をしてくれない。どうしても自分の生活を中心に物を考えて、「月10日以上は働かない」、「自分の趣味の時間に使いたい」といったお話をされる方がどんどん増えている。その中で、女性の方は活発に動かれているといった点は、私たちの職場から見えている現状と一致しているように感じた。男性にどうアプローチしていくかは厳しくもあるが、今聞いたお話は、私たちの仕事にも通ずるところがある。元気な高齢者がたくさんいらっしゃるので、少しでもボランティアに関わりを持てるようアピールして、協力させていただきたい。

池田会長

男性は恥ずかしがり屋なのではないか。

齊藤委員

ポジボラは、お一人で来ていただき、ご自身のことをお話ししていただくのだが、それは全く問題が

ないようで、男性ばかりとなっている。一方、資源ごみの回収については、集団で行うという点で、女性がすんなり入っていったのかなと感じた。

川上委員

一つの例だが、今包括と色々な事業を行っており、毎月ミーティングもある。若いスタッフの方もいるので、いい刺激になっており、男性が一人二人増えてくるのではと思っている。

池田会長

ポジティブな、協力するとの意見がたくさん出てきたので、ちょこっと見守りにしても、市内にどんどん広げていければと思う。高校生等の若者を巻き込んでいくことは、これからの函館市にとって大いに必要で、もっと包括と連携して、今やっている輪を大きくしていく試みをしなければそこで終わってしまう。さらに発展させていくことが今後の課題だと思うので、頑張ってもらいたい。

3 議事

生活支援コーディネーターの普及啓発について

池田会長

では、次に、「生活支援コーディネーターの普及啓発について」をお願いしたい。

齊藤委員

(資料「高齢者生活支援のイメージキャラクター審査資料一式」に基づき、説明)

前回の協議体で意見をいただき、関わってきた函館大妻高校、函館白百合学園高校、市立函館病院高等看護学院の方にキャラクター募集をお願いした。

第1層では、仲間生活する習性のあるイルカについて、高齢者が孤独にならず孤立を防ぐ願いや多世代で関わっていくイメージなどから、キャラクターのモチーフとして決定したが、16作品の応募があり、委員の皆様へ審査をお願いしたい。

その前に、審査方法を市とも協議したが、次の二つのうち、どちらにするか委員の皆様へ決めていただきたい。案1は、全作品に対し、「デザイン性」、「(キャラクターの命名)理由・由来」、「愛着性」の各項目に1～5点の採点をしていただく方法で、案2は、「デザイン」の順位表と「キャラクターの命名」の順位表について、それぞれ1～10位を選定していただき、それを基に第1層が採点し、合計点を出して順位を決定する方法になる。どちらかという、案2の方が審査しやすいかと思う。

池田会長

どちらの案にも言えることだが、何を重要視するのか。デザインを重視するのであれば、そちらの点数が大きくなると、デザインはそうでもないのにキャラクターの名前がマッチしていた場合、逆

転現象が起きる可能性がある。

齊藤委員

デザインなのか名前なのか、いずれの案も重視する方の点数に差をつけることでよろしいか。

池田会長

ぱっと見た瞬間、キャラクターとしては、やはりデザインが一番重要だと思う。皆さん、どう思うか。

全委員

異議なし

岩島主査

あくまでもデザインなので、絵の上手、下手はあると思うが、下手だから駄目というわけではない。

齊藤委員

採用作品については、色を鮮明にすることはできるがデザインを大きく変えることはできないので、学生が描いたものを尊重して使用することになる。

池田会長

では、審査方法は案2でよいか。

全委員

異議なし

池田会長

それでは、案2でデザインを重視することとする。

齊藤委員

お手数をかけるが、案2の順位表に無記名で記入し、用意した返信用封筒で3月15日までに投函をお願いしたい。

全委員

異議なし

齊藤委員

委員の皆様には、結果を郵送でお知らせしたいと思う。

池田会長

議題については、以上でよろしいか。

齊藤委員

はい、以上です。

4 その他

池田会長

では、その他何かあるか。

全委員

意見なし

池田会長

では、事務局に返します。

5 閉会

岩島主査

池田会長，ありがとうございました。

次回の協議体については，開催の目途が立ちましたら委員の皆様にご日程をお知らせしたい。

これをもって，令和5年度第2回函館市地域支え合い推進協議体会議を終了させていただく。

本日はありがとうございました。